

中 監 第 1 5 号
令和4年7月20日

中種子町長 田淵川 寿広 殿

中種子町監査委員 利水 幸光
中種子町監査委員 池山喜一郎

令和3年度中種子町水道事業会計歳入歳出決算審査
の意見書について（提出）

地方公営企業法第30条第2項の規定により、令和4年5月20日付けで審査に付された令和3年度中種子町水道事業会計歳入歳出決算について審査したので、次のとおり意見書を提出します。

令和3年度

中種子町水道事業会計
決算審査意見書

中種子町監査委員

目次

第1． 審査の概要	1 頁
1. 審査対象	
2. 審査の実施期間	
3. 決算書の調製並びに提出期限	
4. 審査の方法	
第2． 審査の結果	2 頁
第3． 決算の状況	2 頁
1. 水道事業の経理	2 頁
2. 予算の執行状況	
(1) 収益的収入及び支出（税込）	2 頁
(2) 資本的収入及び支出（税込）	3 頁
(3) 収支状況（税抜）	4 頁
(4) その他の事項	5 頁
3. 業務状況	7 頁
(1) 給水状況	7 頁
(2) 建設改良事業の状況	8 頁
4. 財政状況	8 頁
第4． 審査意見	9 頁

第1 審査の概要

1 審査対象

- (1)令和3年度水道事業会計決算書
- (2)伝票及び損益計算書、貸借対照表、余剰金計算書、固定資産明細書、企業債明細書、事業報告書、収益費用明細書、資本的収支明細書その他必要な関係書類等

2 審査の実施期間

令和4年5月31日

3 決算書の調整並びに提出期限(公企法第30条第1項)

管理者から町長に対する決算書の提出及び町長から監査委員に対する決算書送付については、法定の期限内に提出される。

4 審査の方法

決算審査は、令和4年5月20日付けをもって町長から提出された決算書及び財務諸表をもとに、地方公営企業法第3条の基本原則に従い適正に執行されているかを重点に経営成績並びに財務状態の審査を行った。

審査の方法は、会計伝票及び関係証拠書類との照合を行い、定期監査及び例月出納検査の結果も考慮のうえ、諸資料については必要に応じて関係職員の説明を求めた。貯蔵品(たな卸資産)の検査については、本年4月1日に現物を確認した。

なお、この決算審査にあたっては、監査基準によるほか、次の諸点に重点をおいて審査を実施した。

- (1)決算計数は正確であるか。
- (2)財務処理は適正になされているか。
- (3)法令、条例に違反するような経理はないか。
- (4)予算執行は、目的に沿って効率的かつ的確に執行されているか。
- (5)事業が効率的に運営され、企業の経済性の発揮と公共性の確保がなされているか。

第2 審査の結果

令和3年度水道事業会計決算額は、次表のとおりで関係諸帳票、証拠書類と合致しており、決算計数は正確であることを確認した。

また、予算の執行、収入支出の事務整理及び財産の管理、固定資産明細書、企業債明細書等の記載事項も適正であると認めた。

第3 決算の状況

1 水道事業の経理

経理はその企業活動を正確に把握するため、営業に係る活動を損益取引(収益的収支)と、営業活動以外における資本の増減を資本取引(資本的収支)として明確に区分する複式簿記を採用している。

2 予算の執行状況

(1)収益的収入及び支出(税込)

収益的収入及び支出は、企業の経営活動に伴い発生する収益と、これに対する費用である。

令和3年度の収益的収入及び支出の執行状況は次表のとおりであるが、収入にあたる水道事業収益の決算額は2億9,304万円で、前年度より3,631万1千円減となっている。(令和2年度決算額については、営業外収益の消費税還付3,702万4千円を含む。)

主なものは営業収益の給水収益で1億7,746万3千円、営業外収益では長期前受金戻入4,384万8千円、資本費繰入収益4,998万4千円となっている。

支出にあたる水道事業費用では、決算額が2億8,770万9千円で、前年度より2,882万7千円の減となっている。水道事業費用の主なものは、営業費用で職員給与費7名分4,448万9千円、動力費2,489万5千円、委託料2,001万1千円、減価償却費1億5,098万3千円、営業外費用では企業債利息1,086万3千円となっている。

区 分	【第1表】 (単位：千円・%)						
	3年度 予算額 (A)	3年度 決算額 (B)	予算額 との増減 (B)-(A)	執行率 (B)/(A)	決 算 構成比	2年度 決算額 (C)	決算額 の増減 (B)-(C)
水道事業収益	288,229	293,040	4,811	101.7%	100.0%	329,351	△ 36,311
営業収益	176,801	177,927	1,126	100.6%	60.7%	182,333	△ 4,406
営業外収益	111,427	115,112	3,685	103.3%	39.3%	147,017	△ 31,905
水道事業費用	315,327	287,709	△ 27,119	91.2%	100.0%	316,537	△ 28,827
営業費用	300,180	265,284	△ 34,896	88.4%	92.2%	288,951	△ 23,667
営業外費用	14,147	22,424	8,277	158.5%	7.8%	27,516	△ 5,092
特別損失	500	1	△ 499	0.2%	0.0%	69	△ 68
予備費	500	0	△ 500	0.0%	0.0%	0	0

(2) 資本的収入及び支出(税込)

資本的収入及び支出は、将来にわたり経営の安定を図るための設備投資に係る収入と、これに対する費用である。

令和3年度の資本的収入及び支出の執行状況は次表のとおりである。資本的収入は決算額で2億4,235万5千円となっているが、うち2億669万円8千円は翌年度繰越額に係る財源充当となっている。また、前年度に比べると3億8,545万1千円の減となっている。これは、建設改良事業の繰り越しによるものである。

資本的支出は、決算額で1億3,963万6千円で、前年度に比べ6億3,819万7千円の減となっている。要因は前述のとおりである。

この結果、資本的収入が資本的支出に対して不足する額1億397万9千円は、過年度損益勘定留保資金3,635万9千円、当年度損益勘定留保資金6,228万3千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額533万6千円で補填されている。

【第2表】		(単位：千円・%)					
区 分	3年度 予算額	3年度 決算額	予算額 との増減	執行率	決 算 構成比	2年度 決算額	決算額 の増減
	(A)	(B)	(B)-(A)	(B)/(A)		(C)	(B)-(C)
資本的収入	660,250	242,355	△ 417,895	36.7%	99.3%	627,806	△ 385,451
企業債	658,000	240,600	△ 417,400	36.6%	99.3%	362,200	△ 121,600
工事負担金	2,250	1,755	△ 495	78.0%	0.7%	4,856	△ 3,101
出資金	0	0	0			105,000	△ 105,000
補助金	0	0	0			155,750	△ 155,750
資本的支出	790,437	139,636	△ 650,802	17.7%	71.0%	777,833	△ 638,197
建設改良費	712,620	61,820	△ 650,800	8.7%	44.3%	706,434	△ 644,614
企業債償還金	37,342	37,341	△ 1	100.0%	26.7%	35,326	2,015
地方債償還金	40,475	40,474	△ 1	100.0%	65.5%	36,072	4,402

(3) 収支状況(税抜)

令和3年度における経営状況(税抜)は、総収益が2億7,690万7千円に対して、総費用が2億7,388万4千円で、当年度純利益が302万3千円となっている。

【第3表】		(単位：千円・%)			
区 分	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	前年度 との増減 (a)-(b)	伸率 (a)/(b)	備考
営業収益(A)	161,766	165,771	△ 4,005	97.6	
営業費用(B)	259,337	282,037	△ 22,700	92.0	
営業損失(C=A-B)	△ 97,571	△ 116,266	18,695	83.9	
営業外収益(D)	115,112	109,992	5,120	104.7	
営業外費用(E)	14,547	27,516	△ 12,969	52.9	
経常利益(F=D-E+C)	100,565	82,476	18,089	121.9	
特別利益(G)	29	11	18	263.6	
総収益(H=A+D+G)	276,908	275,774	1,134	100.4	
総費用(I=B+E)	273,884	309,553	△ 35,669	88.5	
純利益(J=H-I)	3,024	△ 33,779	36,803	-9.0	
前年度繰越欠損金(K)	33,779	0	33,779		
当年度未処理欠損金 (J-K)	△ 30,755	△ 33,779	3,024	91.0	

(4)その他の事項

ア 企業債

令和3年度の企業債は、新たな借入が1件2億4,060万円(利率0.8%)、当年度償還高は7,781万5千円である。この結果、令和3年度末の状況は、平成9年度以降の借入分31件で、企業債残高16億1,376万5千円となっている。

年度	未償還元金
23	226,591,199
24	206,854,224
25	190,709,571
26	174,245,224
27	157,454,796
28	140,331,785
29	219,869,547
30	1,146,819,061
1	1,160,180,524
2	1,450,981,381
3	1,613,765,406

【第5表】

給水収益及び償還金

(単位：円, %)

年 度	給水収益 A	企 業 債 償 還 金			料金収入に対する比率 B/A
		元 金	利 子	計 B	
25	153,858,601	16,144,653	3,969,883	20,114,536	13.1
26	150,046,778	16,464,347	3,650,189	20,114,536	13.4
27	148,228,338	16,790,428	3,324,108	20,114,536	13.6
28	151,029,819	17,123,011	2,991,525	20,114,536	13.3
29	147,576,538	17,462,238	2,652,298	20,114,536	13.6
30	167,161,319	65,254,116	10,993,521	76,247,637	45.6
01	165,284,479	32,137,481	9,852,832	41,990,313	25.4
02	165,235,452	35,326,979	9,479,974	44,806,953	27.1
03	161,330,493	37,341,075	10,863,554	48,204,629	29.9

イ キャッシュ・フロー計算書

当期純利益を起点として、これに調整項目を加減算する事によって、純粋な現金の増減を表示するものである。業務活動によるキャッシュ・フローは1億2,925万1千円の増、投資活動によるキャッシュ・フローは2億5,822万8千円の減、財務活動によるキャッシュ・フローは1億5,966万4千円の増で、令和3年度の資金の増減は、3,068万6千円の増となった。

令和3年度のキャッシュ・フロー計算書は、次表のとおりである。

【第6表】 令和5年度中種子町水道事業 キャッシュ・フロー計算書		
(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)		(単位：円)
1	業務活動によるキャッシュ・フロー	
	当年度純利益又は当年度純損失 (△)	3,023,335
	減価償却	150,983,813
	資産減耗費	2,352,242
	賞与引当金の増減額 (△は減少)	44,000
	貸倒引当金の増減額 (△は減額)	△ 207,132
	長期前受金戻入及び受取配当金	△ 43,848,350
	受取利息及び受取配当金	△ 1,907
	支払利息	11,530,666
	未収金の増減額 (△は増減)	55,160,874
	未払金の増減額 (△は減少)	△ 38,251,827
	棚卸資産の増減	△ 5,160
	その他の支出	
	小計	140,780,554
	利息及び配当金の受取額	1,907
	利息の支払額	△ 11,530,666
	業務活動によるキャッシュ・フロー	129,251,795
2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	有形固定資産の取得による支出	△ 53,363,962
	有形固定資産の取得による前払金支出	△ 206,620,000
	国庫補助金による収入	
	工事負担金による収入	1,755,000
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 258,228,962
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	一時借入による収入	
	建設改良費等の財源に充てるための 企業債による収入	240,600,000
	建設改良費等の財源に充てるための 企業債の償還による支出	△ 77,815,974
	リース料の支払による支出	△ 3,119,946
	一般会計からの出資金による収入	0
	一時借入による返済による支出	
	財務活動によるキャッシュ・フロー	159,664,080
	資金増加額 (又は減少額)	30,686,913
	資金期首残高	112,386,022
	資金期末残高	143,072,935

ウ 水道料金の収納状況

令和3年度水道料金の収入額は、1億7,746万3千円で、前年度に比べ429万5千円(2.3%)の減収となっているが、収納率は95.2%と1.2ポイント上昇している。

うち現年度の収入額は、1億7,159万5千円で、収納率は98.14%と昨年度対比で0.69ポイント増加しており、過年度(令和2年度以前)の収入額は586万8千円で、収納率50.43%と昨年度対比で4.95ポイント増加している。

令和2年度と比較して未収の金額、件数ともに減少している。

年 度	令和3年度		令和2年度		増 減	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
令和3年度	481	3,306,780				
令和2年度	17	849,570	472	4,637,467	△ 455	△ 3,787,897
令和元年度	16	749,356	37	1,127,900	△ 21	△ 378,544
平成30年度	13	709,574	35	1,248,952	△ 22	△ 539,378
平成29年度	7	553,241	21	956,354	△ 14	△ 403,113
平成28年度	4	334,397	10	612,735	△ 6	△ 278,338
平成27年度以前	11	2,572,142	29	3,053,016	△ 18	△ 480,874
合 計	549	9,075,060	604	11,636,424	△ 55	△ 2,561,364

3 業務状況

(1)給水状況

給水人口については、前年度7,570人から本年度7,458人と112人の減少、給水件数は4,679件で対前年度19件の減少となっている。

水量では、年間総配水量が1,333,344m³に対し、年間総給水量は895,784m³、前年度で比較すると年間総配水量は158,330m³(前年度対比13.5%)の増加、年間総給水量は18,011m³(前年度対比2.0%)の減少となっている。

有収率については67.18%となり、前年度77.77%から10.6ポイントの減少が見られた。これは、配水管の漏水も原因だが、配水池及び流量計の機器の更新が大きな要因と思われる。また、1m³あたりの収益(供給単価－給水原価)は、△76円65銭であり、前年度の△112円06銭と比較して減少している。

【第8表】

区 分	令和3年度	令和2年度	増減	伸率	備考
	(a)	(b)	(a)-(b)	(a)/(b)	
年度末給水人口(人)	7,458	7,570	△112	98.5%	
年度末給水戸数(戸)	4,679	4,698	△19	99.6%	
年間総配水量(m ³)	1,333,344	1,175,014	158,330	113.5%	
一日平均配水量(m ³)	3,653	3,219	434	113.5%	
年間総有収水量(m ³)	895,784	913,795	△18,011	98.0%	
一日平均有収水量(m ³)	2,454	2,497	△43	98.3%	
有収率(%)	67.18	77.77	△10.6P	—	
給水原価(円/m ³)	256.75	292.88	△36	87.7%	
供給単価(円/m ³)	180.1	180.82	△1	99.6%	
料金回収率(%)	70.1%	61.7%	8.4P	—	

(2) 建設改良事業の状況

導水設備改良費では、導水管布設工事1件で1,134万1千円、浄水設備改良費では、古房浄水場更新工事6件(内5件繰越)3,562万2千円、配水設備改良費では、道路改良に伴う配水管布設替工事3件で、428万7千円、取水設備拡張費では、二十番深井戸水源ポンプ施設設計業務委託1件で536万8千円、以上建設改良費で実施した。

これらの、工事の中で、二十番深井戸水源導水管敷設工事、町道大平中山線配水管布設替工事の現場調査を行い、いずれも工事が完了していることを確認した。

4. 財政状況

令和3年度の資産合計は33億4,404万1千円で、前年度に比べ8,238万6千円(2.5%)増加している。固定資産では償却が減ったため、9,997万2千円減少、流動資産は現金が増加しており、1億8,235万8千円増加している。負債合計は、23億9,041万5千円で前年度に比べて、7,936万4千円増加している。これは流動負債及び繰延収益は減少しているものの、固定負債で企業債の未払金が増加したためである。資本合計は本年度302万4千円純利益が生じ、9億5,362万6千円となった。

前年度と比較した財政状況は、次表のとおりである。

【第9表】		(単位：千円・%)				
区分		令和3年度	令和2年度	増減	伸率	備考
		(a)	(b)	(a)-(b)	(a)/(b)	
資産	固定資産	2,984,288	3,084,260	△ 99,972	96.8%	
	流動資産	359,753	177,395	182,358	202.8%	
	資産合計	3,344,041	3,261,655	82,386	102.5%	
負債	固定負債	1,537,094	1,379,267	157,827	111.4%	
	流動負債	95,879	132,250	△ 36,371	72.5%	
	繰延収益	757,441	799,534	△ 42,093	94.7%	
	負債合計	2,390,414	2,311,051	79,363	103.4%	
資本金	資本金合計	899,938	899,938	0	100.0%	
余剰金	資本剰余金	16,418	16,418	0	100.0%	
	利益剰余金	37,270	34,246	3,024	108.8%	
	剰余金合計	53,688	50,664	3,024	106.0%	
資本合計		953,626	950,602	3,024	100.3%	
負債・資本合計		3,344,041	3,261,655	82,386	102.5%	

第4 審査意見

審査に付された水道事業決算報告書、損益計算書、関係諸帳票等は、地方公営企業法関係法令及び水道事業会計規程に準拠して作成されたもので、経営成績及び財政状態を適正に表示しており、決算の計数については正確なものと認めた。資本的収支による不足額に対する補填財源についても妥当である。

令和3年度水道事業会計決算の内容については、依然として厳しい経営が強いられている。

中種子町水道事業経営戦略において、計画目標としている有収率の向上は、今回流量計等設備の更新で大きく数値が下がったとのことであるが、財政の健全化を図る上での最重点課題である。そのためにも、引き続き漏水調査による漏水箇所の早期発見と、その改善及び老朽管の布設替え等を年次的に進めながら、原水の確保、配水施設の改良等による水の安定供給に努められたい。

また、水道料金の未収額収納対策については、職員の努力もあり改善が見られる。今後も、滞納者への督促・催告を継続し、停水予告通知及び停水措置等を行い、さらに水道課以外とも連携を図りながら職員一体となって対処されたい。特に新規滞納者を増やさないように努力していただきたい。

令和4年4月から水道料金改定がされたのことであるが、料金値上げの際には、経費の節

減と効率化を図ることはもちろんのこと未収金の回収には一層の努力をされ、住民からの理解を得られるような事業体制の構築を図る必要がある。

公営企業経営の基本原則である公共性・経済性を十分認識し、良質な水の供給と長期的視点に立った上での公共の福祉増進に寄与されるよう切に望むものである。